

# SON-DAY, APRIL 12<sup>th</sup> 2026 WORSHIP SERVICE No.1160

✠ 単立キリスト教会 マラナサ・グレイス・フェローシップ Maranatha Grace Fellowship [MGF] Since Jan. 18, 2004

教会所在地：〒380-0802 長野市上松2丁目7-20 ☎: 026-219-2388 牧仕：Kaz、菊地 一徳 (かずなり)

✪ <https://mgfchrist.com> ✪ [www.facebook.com/mgf.nagano.japan](http://www.facebook.com/mgf.nagano.japan) ✪ [jesus-mail@mgfchrist.com](mailto:jesus-mail@mgfchrist.com)

MGF は、☑神第一主義、☑キリスト中心主義、☑聖霊主導主義の教会

## 礼拝黙想 Meditating on Worship

「人々がシオニストを批判する時、それはユダヤ人を指している。君が言っているのは反ユダヤ主義である。」

(マーティン・ルーサー・キング・ジュニア)

### A 反ユダヤ主義：メシア的対応 (ONE FOR ISRAEL)

反ユダヤ主義は時代や宗教によって制約されることなく、歴史を通じて無神論者、キリスト教徒、イスラム教徒、異教徒など、あらゆる人々の手によって続けられてきた。ユダヤ人が文化に同化しようと、自らのコミュニティに閉じこもりようと、彼らはどこへ行っても、何をしようと、憎まれ、迫害されてきた。亡命先であろうと故郷であろうと、バビロンであろうとエジプトであろうと、キリスト教圏ヨーロッパであろうと、無神論ロシアであろうと、イスラム教圏の中東であろうと、神に従おうと、神に反逆しようと、攻撃は止むことがない。

反ユダヤ主義は、最も古い憎悪なのか？ハマスとの戦争は、イスラエルが想像を絶するほど残虐な方法で攻撃されたことがきっかけとなったにもかかわらず、世界中で前例のない反ユダヤ主義の高まりを招いた。しかし、反ユダヤ主義は戦争がなくても燃え上がる。動機が何であれ、海外でユダヤ人が攻撃されるたびに、必ずイスラエルを非難する者が現れる。「全くもって恐ろしい犯罪行為だが、現在のイスラエル政府は、パレスチナ人に対する自らの行動が反ユダヤ主義を再燃させているかもしれないということに気づいたことがあるのだろうか？」英国の議員ジェニー・トンジは、イスラエルの政策がピッツバーグでのユダヤ人大量虐殺の原因だと主張したが、これは彼女自身の反ユダヤ主義的な行為であり、実に恐ろしい。

実際、反ユダヤ主義は現代イスラエル国家の苦難が始まるずっと以前から存在していた。アドルフ・ヒトラーを悩ませていたのは「占領」ではなかった。スペイン異端審問官も、ヨーロッパやロシアで何世紀にもわたってユダヤ人の命を奪った暴力的なポグロムや十字軍の加害者たちも同様である。エステル記でハマンを激怒させたのも、ア

マレク人を怒らせて出エジプト直後に民族全体を滅ぼそうとさせたのも、入植地や検問所ではなかったことは明らかだ。イスラエル国家がユダヤ人に対する人種差別を引き起こしているのではなく、むしろユダヤ人に対する人種差別こそがユダヤ国家の必要性を示しているのである。

「神のみこころのために選ばれた民が存在する限り、攻撃と絶滅の試みは絶え間なく続いてきた。イスラエル国家がユダヤ人に対する暴力の責任を負うべきだと主張するのは、全くばかげている。」

ユダヤ人に対する非合理的な偏見は、しばしば「古代からの憎悪」と呼ばれる。あらゆる時代、あらゆる場所で噴出するこの激しい憎悪には、共通点が見当たらず、論理的な説明は存在しないように思われる。それはただ単に、ユダヤ人がユダヤ人だからという理由に過ぎない。だからこそ、嚴重な警備、嚴重な国境管理、検問所が必要となるのだ。彼らが裕福であろうと貧しかろうと、周囲の人々と見た目が似ていようと、服装が似ていようと、考え方が似ていようとまいと、攻撃を防ぐものは何もない。

真の憎悪の対象：イスラエルの神  
ユダヤ人をユダヤ人たらしめているものは何であろうか？それは、ご自身の目的のためにこの民族を創造された神である。イスラエルの民を創造されたのは神であった。神はヤコブの名をイスラエルに変え、彼の12人の息子たちがイスラエルの12部族となることを定められた。彼らは神の民である。神に選ばれ、神に導かれ、神に教えられ、神にとってかけがえのない民であった。そして、彼らは神の名によって呼ばれている。

「あなたは、あなたの神、主の聖なる民だからである。あなたの神、主は、地の面のあらゆる民の中からあなたを選んで、ご自身の宝の民とされた。」(申命記 7:6)

神はなぜイスラエルを選んだのか？  
彼らが神と一体化しただけでなく、神も彼

らと一体化しました。神は今も、そしてこれからもずっとイスラエルの神である。聖書の中で、神は何百回もご自身をイスラエルの神と呼んでいる。イスラエルをエジプトから救い出した神である。エレミヤ書16章14節と23章7-8節から、いつの日か私たちは、イスラエルを再び集めた神として神を知るようになるだろう。どのように見ても、神はイスラエルと切っても切れない関係にあり、これからはずっとそうであろう。このことは多くの人々を苛立たせる。神が特定の国を選んだこと、イスラエル(全人類と同様に)が常に神の恵みを受けるに値しない存在であったこと、あるいは神が責任者であり、誰にも相談せずにそのような選択をすることができるという事実には憤慨する者もいる。

「反ユダヤ主義は、人間の根源的な反抗心から生じる。神の民であるユダヤ人は神と結びついており、したがってユダヤ人への憎悪は時に潜在意識に潜むものの、常に未再生の心に起因する。」(クリスティン・ダーク)

リチャード・ブッカーズ博士も同様の趣旨で、ユダヤ人への憎悪は神への憎悪であると述べている。なぜなら、ユダヤ人は自分たちの人生について神に責任があることを世界に思い出させる存在であり、人々はそれを思い出させられたくないからだ。

私たちの魂の敵は、神が過去、現在、未来にわたる世界の救済計画において重要な役割を担うようユダヤ人を選ばれたため、彼らを特別な憎悪をもって憎んでいる。そしてサタンは、イスラエルの民をできる限り滅ぼし、中傷するという彼の企てに協力し、その手先となることを厭わない人物を、遠くまで探す必要はない。その証拠は、悲しいことに歴史の至る所に散見される。

非ユダヤ人はどのようにして反ユダヤ主義に立ち向かうことができるのか？

TRUE WORSHIPPERS, HOT GOSPELLERS, JESUS FREAKS

To Know Christ And To Make Him Known ☑ Love God And Love People ☑ Jesus Is Coming

「ユダヤ人を愛さずに神を愛することはできない」とコーリー・テン・ブームは警告した。このようなことを指摘する必要があること自体が衝撃的だが、教会史におけるユダヤ人への扱いは、読むに堪えないほど不快なものだ。では、現代のキリスト教徒は反ユダヤ主義に立ち向かうために何ができるのだろうか？

#### 1. 祈る

私たちの祈りの影響力を過小評価してはならない。イスラエルのために、そしてアメリカ、フランス、イギリス、そして世界中で反ユダヤ主義に直面し、不安を抱えているユダヤ人コミュニティのために祈ろう。イスラエルの敵のためにも祈らなければならない。憎しみと嘘の網に囚われている人々のために祈ろう。神がご自身の民をどれほど愛しておられるかという真実に目を向けられないキリストチャンのために祈ろう。あなたの祈りは必ず父なる神の御心に届く。そして、私たちが神のみこころに従って祈るならば、神は私たちの祈りを聞き、答えてくださると私たちは知っている。祈ることに加えて、近くのシナゴグに手紙を送って、あなたが彼らのために祈り、彼らと共に立ち、彼らを気にかけていることを伝えてみてはどうか。それは彼らにとって大きな意味を持つだろう。

#### 2. 公に真実を擁護し、嘘を非難する

イスラエルとユダヤ人を中傷する虚偽の情報が増え続けている。イスラエルがアパルトヘイト国家であるとか、ジェノサイドを行っているというのは全くの事実無根である。世界、ましてや中東を乗っ取るとするユダヤ人の陰謀など存在しない。イスラエルは民間人、特に子供たちの殺害を避けるためにあらゆる努力を尽くしており、こうした事柄に関して流布される嘘は反ユダヤ主義の憎悪を煽るだけである。どちらか一方の言い分を鵜呑みにするのではなく、何が真実で何が嘘なのかを自ら調べることが重要だ。そして、確かな事実を見つけたら、それを公表してほしい。

極右の人種差別であり、極左のイスラエル憎悪であり、反ユダヤ主義は陰謀論によって煽られている。その背後には、虚偽を広め、恐怖を煽る者、すなわち嘘の父が潜んでいる。真実を明らかにし、それを公言することで、私たちは反ユダヤ主義との闘いに貢献できる。

3. イエスはユダヤ人であることを人々に思い出させよう（現在形）。  
ラッセル・ムーアがワシントン・ポスト紙の記事で的確に述べたように、「ユダヤ人を憎むなら、イエスも憎むことになる」。

「キリストチャンが『イエスはユダヤ人だったことを忘れてはいけない』と言うのをよく耳にする。確かにその通りだが、過去形を使うと、イエスのユダヤ人としてのアイデンティティは復活の際に捨て去られたもののように聞こえてしまう。イエスは今も生きており、天で王座に着いている。変貌し、栄光を受けているが、それでもイエスであることに変わらない。つまり、今も、そしてこれからもずっと人間であり続ける。今も、そしてこれからもずっとマリアの息子であり続ける。今も、そしてこれからもずっとガリラヤ人であり続ける。ダマスコへの道でタルソ人のサウロの前に現れた時、復活したキリストは自らを「ナザレのイエス」と名乗られた（使徒 22:8）。イエスはユダヤ人である。今もそうだ…ユダ族の出身。ダビデの家系の出身…キリストチャンである私たちは皆、ユダヤ人の家族、イスラエルの物語に迎え入れられたのだ。」

あまりにも多くのキリストチャンが新約聖書を誤解し、イエスがユダヤ人全体に敵対していたと考えている。しかし、イエス自身がユダヤ人であるだけでなく、彼の家族全員、弟子たち全員、そして初期教会のほとんどの人々もユダヤ人であった。聖書は、神はイスラエルを見捨てておらず、ユダヤ人を決して見放さないと教えていることを、キリストチャンの友人たちに思い出させてあ

げてほしい（ローマ 9～11 章）。

#### 4. イスラエルの民と一体化する

特にこのような時こそ、ユダヤ人と共に立ち上がることが重要である。イスラエルの人々が攻撃を受けている今、彼らに寄り添うことが大切だ。ホロコーストの間、ナチスがユダヤ人に黄色い星の着用を強要していた時、デンマーク国王は財務大臣のヴィルヘルム・ブールに「我々も皆、黄色い星を着けるべきではないか」と提案したと言われている。このような行為は、ユダヤ人を孤立させ、犠牲にしようとする試みを完全に無効化するものであった。同様に、ハヌカの時期にユダヤ人一家の窓にレンガが投げ込まれた時、モンタナ州ビリングスの町全体が連帯を示すために、窓にユダヤ教のハヌキヤ（八枝の燭台）を飾ることにしました。すると、KKK による攻撃はすぐに止んだ。ユダヤ人の隣人と共に立ち上がるには、自分たちも標的になることを承知の上で勇気が必要であったが、それは力強い行動であった。

イエスを信じる異邦人にとって、イスラエルとの一体感は単なる形式的な行為ではなく、現実の表現、つまりあなたがイスラエルの共同体に接ぎ木されているという深い真実の表れである。ルツがナオミの民とその神に対して示した勇敢な愛は人々の目に留まった。あなたの愛もまた、決して見過ごされることはないだろう。

「お母様を捨て、別れて帰るように、仕向けないでください。お母様が行かれるところに私も行き、住まれるところに私も住みます。あなたの民は私の民、あなたの神は私の神です。あなたが死なれるところで私も死に、そこに葬られます。もし、死によってでも、私があなたから離れるようなことがあったら、主が幾重にも私を罰してください。」（ルツ 1:16-17）[Ω](#)

### <お知らせ Announcement>

- ★4月19日（日） 午後はキッズによる復活記念スキットがあります。
- ★4月26日（日） ディアコノス・ランチ。

MGF はキリスト狂徒の集まるキリスト狂会

「教会 [マラナサ・グレイス・フェローシップ (略称: MGF)] はキリストのからだであり、すべてのものをすべてのもので満たす方が満ちておられるところです」(エペソ 1:23)。「あなたがた [MGF] は、キリストにあって満たされているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです」(コロサイ 2:10)。